
草案的ネタ帳

物乞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

草案的ネタ帳

【Nコード】

N9637Y

【作者名】

物乞

【あらすじ】

吾輩はネタ帳である。使われる予定はまだない。

戦闘1 序盤想定。

骨子を組み立てている段階につき閲覧注意。

(前書き)

敵は凄腕の元魔術師。

偽名で活動中なのでまだ無名。

主人公はそこそこの冒険者。

名の売れ具合もそこそこ。

戦闘1 序盤想定。 骨子を組み立てている段階につき閲覧注意。

第一撃、右からくる剣をそらす。

「っ……」

威力が大きすぎて体制を崩す。……双剣、剣を片手で打ち付けるこの武器なら難なく逸らせると思っていただけに、この威力には驚愕。その驚き突き左から第二撃。一撃目を受けて解った、こいつの攻撃を武器で止めようと思っではいけない。正直、ここまでとは思わなかった。確かに相手は魔術師 しかも世に珍しい肉体派だ。

しかし、相手が魔術師であるからこそ、剣筋は稚拙なものであろうと思っていた。事実、相手の剣筋はお世辞にもいいとは言えない。鍛錬を積みめばいい筋になるのだろうが今この場においては3流もいいところだ。だが、その稚拙さを補って有り余る程の威力と速さ。この瞬間、自分は相手の得物が双剣であることに感謝した。これが両手を使って扱う武器だったのなら、一撃目で自分は自らの武器ごと両断されていたであろう。しかし、相手は双剣。一撃一撃が常人が繰り出す大剣の威力であろうとも、それを受け流すことは可能。先ほどは想定より大きい威力だったので不覚にも大勢を崩したがこれからそうはいかない。

一撃、二撃。そう続けて剣を合わし続けて早50。相手が口を開く。

「ほう、なかなか。私もこの戦い方を始めて久しいがここまで耐える者はそうそう居ぬ。たとえ自身の得物と体を強化していても、だ」「その賞賛、有りがたく受け取っておきます。けれども、勝負はこれからですよ」

剣戟の再開。またもや一撃二撃。先ほどの繰り返し。だが、先程とは違うこともある。稚拙さ故か、所々隙がある。それに合わせ

「燃えろ！」

「クッ」

剣を媒介とし簡易的な炎の魔術を発動。致命傷、とまではいかないだろうがそれなりの傷を負わせるたと確信。

だが

「ふん、この程度！ 水よ来たれ！」

本日二度目の驚愕。水で炎を消したところまでいい、曲りなりにも相手は魔術師。それぐらいの事できて当然である。だが、その後、奴は何をした。いや、理解はできる、だがそれは生半可なことではない。よもや、一工程、一言だけで消炎と自信の治療。それを済ませるとは。

「成程、肉体派というからにはそのような魔術が得意ではないと思っていましたが、逆であつたわけですか。自身が習得できる力テゴリーを習得し尽くしたからこそ、剣の道に進んだというわけですか。」

「応とも。剣の道を歩み始めてまだ短いのでな。剣筋の拙さは勘弁してくれ」

これは計算外であつた。まさか相手がこのような化け物とは。しかし、一つ解せないことがある。

「なぜ貴方程の人が剣の道に？魔道を極めるだとか新たなるカテゴリーを作るだとか、そういったことをしないのですか？」

「なに、簡単なことよ。私にはその手の事が向かんのだ。想像力だとかが欠如していてな。新たなる境地を切り開くとか、得意なカテゴリー外の魔術を極めるだとか、そういったことが難しいのだよ。魔道に未練がなかったわけではないが、まあ諦めどころといったやつでな」

それはどんなに難しいことだろう。今まで人生を賭して進んできた道、それを捨て、反対の道を進み始めたのだ。正直に言わせてもらうのならはこの時点で自分は負けを悟った。もちろん実力でも負けているが、精神的なものが一番大きい。今の自分には、この人が山に見える。

「私の負けです」

そういつて自分は剣を落とした。闘うまでもない。闘う前からすでに勝敗は決していたのだ。

「ふむ、ということは私の勝利か……。しかし、後味が悪いな。

どうだね、勝敗関係なしに、一つ練習試合というものは」

どうやら彼は 闘い足りないらしい。だが、その提案に異存はない。勝負は自分の負けだが、まだどの程度まで戦えるのか把握していない。

「受けて立ちます」

結果、その日は彼と練習試合をし続け、宿に彼と二人そろって戻るころには、自分はひとりで歩くことさえ困難になっていた。対して、彼はそこそこ疲労の色を見せたものの、自分の肩を担いで歩いてきたそうだ。その強さには感服する。

戦闘1 序盤想定。

骨子を組み立てている段階につき閲覧注意。

(後書き)

矛盾は気にしたら負け

仲間との会話。骨子段階。

（前書き）

彼の名前は未定です。

主人公の名前も未定です。

仲間との会話。骨子段階。

チープ、あまりにも安い。安すぎて反吐が出そうだ。その信念、理想。彼が吐き出す言葉、それを構成する要素。どれを取っても安い。

だが、それを嘲笑うことなどできまい。それをする者こそ我が嘲笑の的となるだろう。

確かに、彼の言葉はありふれた言葉だ。その理想だって自身から出たものではないだろう。しかし、どうか考えてほしい、そんな安っぽい言葉。そんな言葉を、自分は一度も吐いたことはないのか、と。それは否だ、断じて否だ。誰もが始めはそのようなもの。始めから確固たる信念、理想がある者など、そのような者はよほどの理由があるかよほどの例外だ。前者にしても後者にしても、どちらも希少種。珍しいからこそ、彼のような安っぽさが定義されうる。そして、その安っぽさは恥じ入るものではない。その先に自らの信念を見つけられるか、それが重要なことから。

「その若さ、羨ましいよ」

素直な感想を口にする。

「ハッ、そんなこと言われたって嬉しくないね！俺は早く大人になりたいんだ！」

どうやら皮肉と受け取られたようだ。

「はは、そうか。でもね、大人っていうものはね、なるものじゃないんだ。気づかぬうちになっているものだよ。そして、大人になったと自覚したとき“子供の頃に、こうしておけばよかった”と思うものなんだ。だから、君は子供の内にできることをやるべきなんだ。生き急ぐ必要は無い」

ありきたりな言葉。しかし、ありきたりであるからこそ、人に伝わる多くの事がある。無理いいことを言おうとせず、こういった言葉で語るのが、自分にとっても相手にとっても結果的に良いことな

のだ。

「ふん、どいつもこいつも、皆揃って同じことを言いやがる」

「……何故皆が揃って同じことを言うのか、君になら解るだろう?」

「……解るさ。解るからこそ嫌なんだ。皆俺の事を思っていてくれている。けれど、俺はそれを聞けるほど素直じゃない。それに、俺にはそんな暇はない」

雰囲気が変わる。今までこの場に漂っていたコミカルな雰囲気。

それに、彼が暗い陰を落とす。

「俺にはな、立ち止まっている時間なんてない。一刻も早く、やりたいこと、やらなきゃいけないことがあるんだ」

彼の口調に自分は何一つ返せない。これは彼の根幹にかかわる問題だ。出会って間もない自分が関わっていい問題ではない。これ以上は悪化する一方だろう。

「解った、今日のところはこれまでにしておこう」

「ならっ……」

「だが、君の単独行動を認めるわけにはいかない。ここら一帯は危険だからな。……まあ、その代わりといってはなんだが、少し早めにこの町を発とう」

これが最大限の譲歩だ。

「どのぐらい早めに?」

「それは、他の者と相談して決める。さあ、今日はもう遅い。寝るがいい。」

「……了解」

それじゃあおやすみ、と言って彼と別れる。

それでは、自分も部屋に戻ることにしよう。

そして、部屋に戻り考え事すること10分。全く眠る感じもなくずっと考え続けている。何をと聞かれれば、彼のことをだ。安っぽいと思った理想、思想。それらが安っぽいのは自身の思想でないからだ、と思っていたが、その実ただ単に若さと経験不足故だったとは、予想外であった。

「少し穿った見方をしすぎたか。最近、そういうのばかり相手してたから自然と自分もそうなってしまうた……。こんなざまではともリーダーなぞ、名乗れん」

それも当然だ、と内心では思っている。だが、そんなことは言うていられない。彼と同じように自分にもまた、急いでいることがあるからだ。

「このまま考えていても意味がない、か」

そう判断を下し、寝ようとする。しかし、そう簡単に寝れるわけもなく

「眠れ」

自身に軽い眠りの魔術をかけ、そのまま夢の世界へと旅立つ。

間もなく、日付が変わる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9637y/>

草案的ネタ帳

2011年11月29日22時54分発行